

防災のまち「美浜町」を目指して

10月19日「安全の日」開催 -防災まちづくり報告会・「ORANGE」上演-

日本福祉大学では毎年10月19日を「安全の日」と設定し、防災についての学内世論を広めようと取り組んできました。今回は、「安全の日」では初となる学生のイベントとして、住まいるプロジェクトは大学全体の企画段階から参加してきました。また地域住民の参加を呼びかけた初の試みでした。

当日文化ホールは、地域住民と学生が安全なまちづくりについての認識を共有する場となりました。

「安全の日」イベント当日までのレポート

参加者数
345人

ユニバーサル
美浜町を日本一の「universal」なまちに!



事前にポスターや
チラシを作成し、
キャンパス内で
配布しました。



現代GPの部屋で
打ち合わせが何度
も行われました。

学内・外を問わ
ず広報活動に取
り組みました。



当日は、ケーブル
テレビの知多ネット
ワークの取材に協力。



地元の老人会連
合会の方たちが
参加しました。

今回、中日新聞にも
活動状況が掲載さ
れました。

今回協力いただいた学内外のみなさん
劇団どろんこ 関口ゼミ VICC
半田災害支援 VC の会

プロジェクト代表の飛石君（福祉経営学部3年）の他に、五十嵐君（同学部4年）、山田君（同学部2年）は「安全の日」の日について次のように語っています。

地域の人“ひとり”が心がけるだけでは何も進まない。“みんな”でやることに意味がある

—今回参加者層としては？

以前に手すりつけ調査や「高齢者に優しいまちづくり」アンケート調査に協力していただいた老人クラブの方々に招待状を送りました。そのため、大学近辺に住む高齢者の方が多かったと思います。

その一方、学生の参加者数が少なかったことが大変残念に思っています。

—今回のイベント準備をいつから？

年度当初から秋に報告会を開く予定でしたが、劇団の出演交渉は今年の1月から始まっていました。

—報告会はどうでしたか？

本当に緊張しました。しかし、ここで報告した内容は今後の“住まいる”の方向性としての第一章のようなものです。代表が交代し、次の住まいるプロジェクトではどのような活動をするのか今はまだ手探りの状態です。



—愛知県防災意識調査（鵜飼俊朗さん）のお話を聞いた感想は

鵜飼さんのお話から、愛知県は他の県に比べ、行政の取組みが進んでいるようです。しかし、研究はどこよりも進んでいたとしてもまだ地域住民同士は防災に関しての情報が少なく、災害時に冷静な判断ができないことが考えられると指摘されていました。このことから、大学と美浜町の防災ネットワークを形成するには、まず住民主体のキーマンが必要とすることがあげられます。行政と地域が協同してい

く必要があると思いました。

—PEOPLE PURPLEの上演会をみて

劇には魅せられました。物語は当時、阪神・淡路大震災のレスキュー隊を経験した人の回想で始まります。家族で生き埋めになった人がいたとき、人は誰でも「助けよう」と思い、救援活動を行うのですが、同時に個人の行為だけでなく、共同の行動—『見守りネット（次頁、産業祭りにて説明）』—が重要であることを再確認できました。



参加者・住まいるメンバーの感想

● 福祉経営学部
4年 瀬戸裕子さん

担当：チラシ&
ポスター作り
チラシは『目を引き、
内容がわかりやすく
行きたくなる』という
表現方法に苦労しま
した。

参加者：付属高校生

感動しました。レス
キューの人たちも苦し
くて。人間は無気力
だと思いました。
大震災の本当の姿
がわかりました。

● 福祉経営学部
3年 広瀬由美さん

担当：アンケート分析
分かり易い情報を
伝えるために何度も原
稿を直しました。イベ
ントで得た知識が防災
意識の向上につなが
れば良いと思います。

参加者：学生・一般

消防士の最終面接
に行ってきます。感じ
るとることが多々あり、
この劇の作品に出会
えたことに感謝します。
勇気をもらいました。

● 福祉経営学部
2年 古川友里恵さん

担当：福祉防災マップ
防災マップは全国で
も前例がなく、難しい
ことばかりでした。報
告にこぎつけることが
できたのは皆が一つに
まとまったからです。

十月十九日(木)「安全の日」

「美浜発☆住まいるプロジェクト」では10月19日の「安全の日」の取組みの他、今回も様々なところへ出かけ、自分たちの足で歩き、実際に体験し、地域から学ぶ活動を続けてきました。

人とのネットワークの大切さを学びました

神戸フィールドワークめぐり

9月19日～9月20日

特別養護老人ホーム「けま喜楽苑」

NPO 法人「西須磨だんらん」

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

NPO 法人
「コミュニティ
サポートセンター神戸」



9月19、20日の2日間、プロジェクトメン
バー8人で神戸へフィールドワークを実施し
ました。

今回調査した2つのNPO団体は、「阪神・
淡路大震災」以前から防災について考え、
地域に貢献している団体です。神戸のま
ちは被災前から『防災に強いまち』とし
て取組みが行われていました。しかし、実
際大震災が起きたときにはうまく働きませ
んでした。

これらを教訓に、今でも老人や児童をは
じめとするヒトに対してのトータルケアをめ
ざして活動しています。それは、人々の防

災に対する関心を持たせるだけでなく、地
域のコミュニケーションが大切だというこ
とです。

もともと神戸のまちが復興してきたのは「神
戸が大好き」だからです。

そのため、どこよりも先駆けて『集まりの
場所』、地域住民のコミュニケーションの場
を、休日の病院等も利用し、作ってきました。

“住まいる”ではこれらをそのまま真似す
るのではなく、美浜町にしかできないものを、
自分たちの企画で実現していきたいと考え
ています。



産業まつり用に作成したパネル

2006美浜町産業祭に参加しました

住まいるプロジェクトは昨年に続き、11
月12日(日)美浜町産業祭に参加しました。
今回は、地域の人々と一緒に考える「支
援マップ」と「見守りネットワーク」につ
いてパネルや地図を用意し、地域ぐるみの
防災について交流をはかりました。

今回は、2年生の山田君など、新しい
顔ぶれで役割担当を行いました。

新しい住まいるプロジェクトが始まりました。
今後の活動が大変楽しみです。



支援マップ

書き込み型マップです。大きく美浜町を4つ
に分けた地図を用意しました。独居世帯の高齢者が災
害時に関わらず、孤独死しないよう、地域住民が予め認
知していれば助けられることができると思ったことから始めました。

また、日常生活で災害時に危険だと思う箇所に自由に
シールや書き込みをしてもらいました。



見守りネットワーク

支援マップに関連して、予めどのよ
うな人が住んでいるのか(車椅子利用者、独居世帯等)
を地域の人々に事前に教えることは賛成か反対かというア
ンケート調査を行いました。

やはり反対意見としては“個人情報漏洩”という問
題があり、このネットワークの実行までには難しい課題が
残っています。



募集中!



美浜発☆住まいるプロジェクトメンバー大募集!

現在、「美浜発☆住まいるプロジェクト」で活動をしていただける方を大募集しています。是非下記のプ
ロジェクトメンバー運営のホームページを参照の上、メール等で連絡してください。美浜町を日本一の防災
のまちにするべく、学生の積極的な参加をお待ちしています。

☺美浜発☆住まいる(住まいるプロジェクトの活動概要が掲載。随時更新中)

<http://sumairuxsumairu.web.fc2.com/>

☺住まいる Blog であら☆住まいる ～地域お助け隊～(メンバー個人活動がわかります)

<http://sumairuxsumairu.blog46.fc2.com/>